

- 日時：令和2年2月7日（金）15：45～17：00
- 場所：本校会議室
- 出席者

<運営協議会委員>

綿野 啓 氏（大阪府立大学 教授・工学域長）、木戸 秀樹 氏（堺市立若松台中学校 校長）、
中村 俊一 氏（立志館ゼミナール 館長）、池内 博一 氏（追手門学院大学 准教授）
田村 祥子 氏（泉北高校PTA会長）、中西 美江 氏（泉北高校後援会 会長）

1. 校長挨拶

今年度の振り返りと来年度の経営計画およびSGH事業終了後の取組みについてご意見をお願いしたい。

2. 協議事項

- 委員の皆様より以下のご意見をいただいた。

① 平成31年度学校経営計画に対する学校教育自己診断結果について

- ・ 英語力4技能の取組みについて文法の強化が必要になってくる。
- ・ 部活動との両立について、何を持って肯定率を出しているのか？自己肯定感や、成績がそれなりに取れているという感覚を数値にしても、それはあまり意味がないのではないか？
- ・ メルマガ登録について、実際に活用している人の数が不明。登録数は多いが、活用できているのかわからない。
- ・ 生徒会が盛り上がっていないのではないだろうか？
- ・ 「生徒の誇りを持っているか」という質問は、卒業時に誇りを持つもので、1・2年に聞いても分からないではないか。大学では卒業アンケートで聞くことがある。
- ・ 必須項目での教員と生徒の乖離が存在する。
- ・ 教育相談や学習指導が生徒から見て届いていない。生徒から見ても高い数値（80%）を取るべきである。
- ・ 個人情報を守られているが、70%が気になる数値である。
- ・ 生徒と教員の数字の乖離をなくす努力してほしい。

② 令和2年度学校経営計画について

【めざす学校像】について、主な変更点

主に地域連携に取り組むことで地域社会に貢献する力を入れる。

【中期的目標】について、主な変更点

- ・ 未来社会 Society 5.0 を見据えた時代を生き抜き活躍するための能力の育成
- ・ 地元堺市や堺市社会福祉協議会及び地元自治会、地元企業、NPO法人等との連携を深め、各種イベント等への積極的な参加をめざす

<委員の方々のご意見等>

- ・ 50分授業にする話はなくなったのか？
- ・ 若松台中学校が理科の先生に大変お世話になっている。科学教室を開催していただき感謝して

いる。提案として、科学教室と同様に英語教室なども実施してくれたらありがたい。いい機会になるのではないだろうか。

- ・ 近隣の学校との交流が少ないため、先輩（中学校の卒業生）が関わってくれたら、総合の時間を見学してよく分かるので良い刺激になると思う。
- ・ 泉北コミュニティに泉北高校のことが書かれている。外務省の卒業生が泉北高校で講演している。大学に何人入れたか？ではなく、卒業した後のキャリア形成をもっと宣伝したらよいのではないだろうか？
- ・ 地域密着型は珍しい。堺市との連携がめだってきている。大人と連携するのは素晴らしいグローバルな取組みは独特で素晴らしい。
- ・ 同窓会長を協議会委員に入れてみてはどうか？卒業生のキャリアの追跡について同窓会がバックアップすることができればいいのではないか？
- ・ 進学保障について学びの接続について
- ・ 卒業後の進路についての追跡調査について
- ・ 泉北高校で学んだ事がどう影響を及ぼすか？

★ 「めざす学校像」と「中期的目標」について、運営協議会委員の方々よりご承認いただいた。

③以降については、確認をしていただいた。

○ 最後に校長より本年度のお礼を述べて閉会。